

サポート資源提供システム 2005年度事業報告

2005年4月1日～2006年3月31日

サポート資源提供システム 事務局

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

目 次

1. 実施事業概要	2
2. システム運用報告	
2 - 1 システム運営委員会	3
2 - 2 サポート資源提供	
2 - 2 - 1 物品等提供	4
2 - 2 - 2 パソコン等提供	5
2 - 2 - 3 地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）	7
(1) 概要	
(2) みんなファンド（本体ファンド）	
(3) ふくふくファンド（冠ファンド）	
(4) ろうきん地域貢献ファンド（冠ファンド）	
(5) みやぎNPO夢ファンド（冠ファンド）	
2 - 3 情報発信	16
2 - 4 関連事業報告	
2 - 4 - 1 NPO情報ライブラリー	16
2 - 4 - 2 せんだいCARES	16
2 - 4 - 3 ドナーの学校	18
2 - 4 - 4 地域貢献活動相談センター	21
3. サポート資源提供システム 2005年収支計算書	22
4. サポート資源提供システム 運用実績	24

1. 実施事業概要

「サポート資源提供システム」の本格運用4年目、その資金提供プログラム「地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）」の運用3年目となる2005年度事業の特徴としては、新たに寄付文化の醸成のために「ドナー（寄付者）の学校」事業に取り組んだ。

前年度と同様、オフィス什器・備品や消耗品といった「物品等提供」、中古パソコンや周辺機器を提供する「パソコン等提供」、そして「資金提供＝みんなファンド」の3プログラムで資源提供が行われた。年間の実績としては表1に示す通り、のべ112団体に約1,136万円相当の支援を実施することができた。この支援総額は前年度実績比で43%増となっている。なおシステムの運用当初（2001年9月）からの支援総額の累積は3,312万円となった。

表1 サポート資源提供システム 2005年度 資源提供実績

	提供先団体数 (のべ数)	提供点数	金額換算価値 (*)
物品等提供	35団体	572点	159.5万円
パソコン等提供	41団体	56点	104.5万円
資金提供 ＝みんなファンド	36団体	-	872万円
計	112団体	-	1,136万円

(*) 物品・パソコンは一般の中古市場価格にて換算

前年度に引き続き、システムの運営については、運営委員会との協議の上で進められた。さらに、システムの運営状況について随時ホームページ上で公開するとともに、資源提供を受けたNPOの情報については、関連事業であるNPO情報ライブラリー等を通して積極的に発信し、透明性・公開性の高いシステム運営を行った。

サポート資源提供システム <http://www.minmin.org/SSS/>

みんなファンド <http://www.minmin.org/fund/>

ろうきん地域貢献ファンド <http://www.minmin.org/fund/roukin/>

みやぎNPO夢ファンド <http://www.minmin.org/fund/miyagi/>

NPO情報ライブラリー <http://www.minmin.org/Library/>

また、関連事業として昨年に引き続きキャンペーン「せんだいCARE S 2005」を実施、多くの関連企業・団体の協力を得て、企業人やその周囲の人々がNPOの活動により参加しやすくなるような情報提供を行った。

2. システム運用報告

2-1 システム運営委員会

サポート資源提供システム協賛企業・団体、システム提携企業・団体とシステム事務局（せんだい・みやぎNPOセンター）からなる運営委員会を年度内に2回開催し、事業報告やシステムの運営状況について協議を行った。

表2 サポート資源提供システム運営委員会 2005年度 開催概要

	日時	会場	検討事項
第1回	2005年6月22日 14:10~16:00	せんだい・みやぎ NPOセンター	・2004年度事業報告・収支報告 ・2005年度事業計画・収支予算案 ・その他
第2回	2005年12月1日 16:00~18:00	せんだい・みやぎ NPOセンター	・事業報告（資金提供、物品提供、パソコン提供、ドナーの学校他）

表3 システム運営委員（協賛企業・団体、提携企業・団体 2006年3月末現在）

【協賛企業・団体】 (株)アート・システム イートス(株) (株)一ノ蔵 (株)鈴木魁文堂 (株)ステップ 東北電力(株)宮城支店 東北労働金庫宮城県本部 ハリウコミュニケーションズ(株)	【提携企業・団体】 東北労働金庫宮城県本部 (協)日専連仙台 (株)日専連ライフサービス みやぎNPO夢ファンド(宮城県) (社)宮城県情報サービス産業協会(MISA) 宮城県労働者福祉協議会 ヤマト運輸(株)東北支社 (敬称略・50音順)
---	---



第1回 運用委員会の様子



第2回 運用委員会の様子

2 - 2 サポート資源提供

2 - 2 - 1 物品等提供

今年度は表4に示すように、のべ35団体へ572点の物品を提供することができた。中古市場価格で換算すると、159.5万円相当になる。

表4 サポート資源提供システム 2005年度 物品提供実績

物品等提供

提供者（敬称略）	提供資源	提供先団体数	提供点数	提供時期
せんだい・みやぎNPOセンター	什器・備品	1団体	2点	2005年6月
（株）地域計画研究所	什器・備品	1団体	6点	2005年7月
東京海上日動火災保険（株）	什器・備品	10団体	77点	2005年8月
三井住友海上火災保険（株）	什器・備品	23団体	487点	2006年1月
		のべ35団体	572点	159.5万円相当

今年度は3社より物品提供をいただき、（株）地域計画研究所様および当センターからの提供分については、団体指定寄付とした。東京海上日動火災保険（株）様からは、通算3度目の提供となり、内覧会を前回同様の会場で開催したため、当日の搬出作業など要領よく対応することができた。三井住友海上火災（株）様からは通算2度目の提供となった。当初2拠点分の物品提供のご相談をいただいたが、搬出時の駐車スペースの確保に課題があり、1拠点のみの開催とした。当日は、9フロアにわたる1,500点余りの物品に囲まれた内覧会となり、提供先団体の需要状況もちょうど事業拡充や事務所移転のタイミングと相俟って、十分な提供を受けることができた。



2005年8月の内覧会の様子
東京海上日動火災保険株式会社様



2006年1月の内覧会の様子
三井住友海上火災株式会社様

2 - 2 - 2 パソコン等提供

(社)宮城県情報サービス産業協会(以下、M I S A)様の社会貢献事業「P C - Bridge」との連携により、中古パソコンの提供を継続してきた。

今年度は、年に2回の提供を実施した。このほかに事業の円滑な運営のためにM I S A様とせんだい・みやぎN P Oセンターによる連絡会を定期的で開催した。昨年度は1回のみ提供となり、あらためてM I S A会員企業への広報・P Rの課題が浮き彫りになったため、2005年度は積極的に「P C - Bridge」を周知するため、写真や感謝のメッセージを活用しプレゼン資料をつくり、M I S A様の総会や会合などで掲示した。

加えて今年から、提供を希望するN P Oにサポート資源提供システムを理解していただくために「説明会」を実施した。説明会では、システムの説明、M I S A様のご紹介、提供の流れ、パソコンに関連した悩みなどのヒアリングを実施した。これまでの提供では、M I S A様とN P Oが直接出会い、話し合う機会がなかったが説明会を設けたことでより両者の顔が見えるようになり、提供業務が円滑に進むようになった。

パソコン提供(計3回提供)

2005年6月期 ノートブック2台、プリンタ1台

提 供：M I S A様

受領N P O：ライジングジェネレーションサポートネット、せんだい・みやぎN P Oセンター

2005年9-10月期 デスクトップ21台、ノートブック10台

提 供：M I S A様(ミフミO Aシステム様分含む)

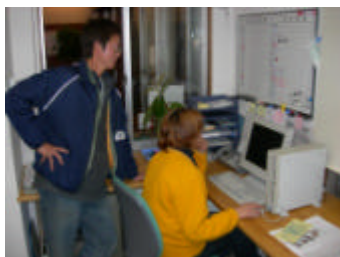
受領N P O：くりはら活性化ネット、フレッシュパール会、みやぎ生涯学習指導・支援センター、仙台夜まわりグループ、けやきグループ、でんでん宮城いきいきネットワーク、名取メンタルヘルス協会、ばざーる太白社会事業センター、宮城県断酒会、Place of play 仙台、白石うぐいす会、冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク、黒川心の応援団、野のゆりホーム、ぶたいサポート・みやぎN P O、社の伝言板ゆるる、せんだい・みやぎN P Oセンター

2006年2-3月期 デスクトップ4台、ノートブック18台

提 供：M I S A様

受領N P O：N P Oやまぼうし、フレッシュパール会、みどり会、宮城県断酒会、ホゴノプロフェイス、冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク、N P Oゆめつむぎ、いきいき亘理、ばざーる太白社会事業センター、みやぎいのちと人権リソースセンター、クローバー、こひつじるーむ

< N P O の P C 活用の様子 >



情報連絡会の開催（計 2 回）

2005 年 11 月 22 日 せんだい・みやぎ N P O センターにて

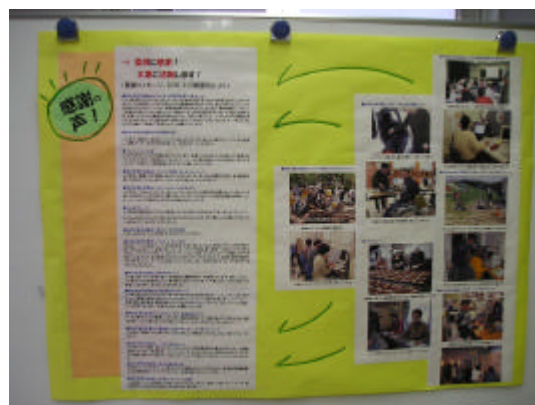
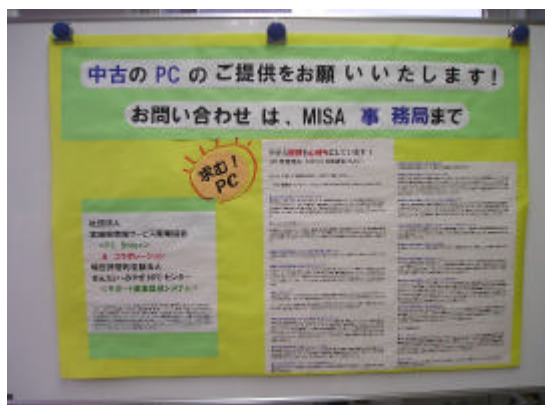
2006 年 3 月 14 日 せんだい・みやぎ N P O センターにて

N P O 向けの説明会の様子

（ M I S A の池田様から N P O に P C - Bridge のご説明をいただいた ）



M I S A 様の総会などで企業に P C の提供を呼びかけた



2 - 2 - 3 地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）

（１）概要

前年度と同様、

- ・みんなファンド（本体ファンド）
- ・ふくふくファンド（宮城労福協社会貢献活動基金）
（冠ファンド 設置者＝宮城県労働者福祉協議会様）
- ・ろうきん地域貢献ファンド（冠ファンド 設置者＝東北労働金庫宮城県本部様）
- ・みやぎNPO夢ファンド（冠ファンド 設置者＝宮城県様）

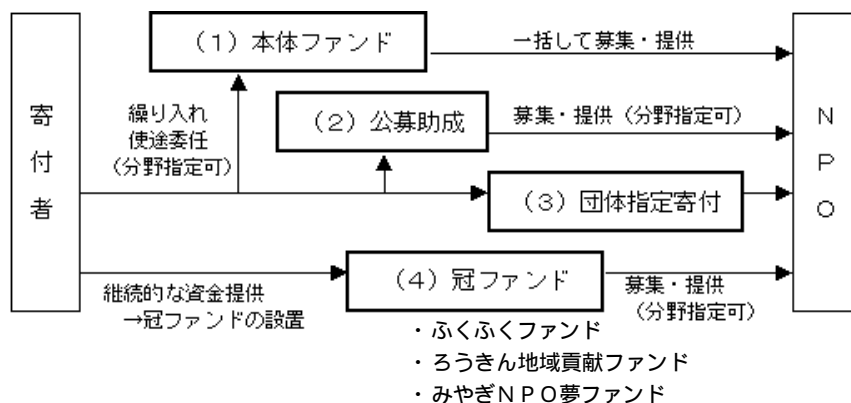
による助成を実施した。各ファンドの助成規模が増大したことにより、助成総額は前年度の666万円から872万円へと31%増加した。

表5 地域貢献サポートファンドみんな 2005年度 資金提供実績

提供者（敬称略）	提供資源	提供先団体数	提供総額	提供時期
みやぎNPO夢ファンド（宮城県）	助成金（冠ファンド）	22団体	619万円	2005年5月
ろうきん地域貢献ファンド （東北労働金庫 宮城県本部）	助成金（冠ファンド）	6団体	153万円	2005年8月
みんなファンド（*）	助成金（本体ファンド）	2団体	40万円	2005年11月
ふくふくファンド （宮城県労働者福祉協議会）	助成金（冠ファンド）	6団体	60万円	2005年11月
		のべ36団体	872万円	

（*）9名・団体からの寄付金をあわせて提供

図1 地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）助成メニュー



今年度は、公募助成、団体指定寄付による資金提供は実施されなかった。本体ファンドおよび各冠ファンドからの資金提供の実績については、以下の通りである。

(2) みんなファンド(本体ファンド)

地域の市民・企業・団体の皆様からの寄附金によって運営される「本体ファンド」には、2005年4月から2006年3月までの1年間に、総額758,559円の寄附金をいただいた。(この他に、前年度からの繰越金が513,318円あった)。

表7 みんなファンド(本体ファンド)へ寄附をいただいた皆様
(前年度ご寄附をいただいて、繰越とさせていただいた方々を含む)

(株)アート・システム様、社員ご一同様 特定非営利活動法人いしのみきNPOセンター様 スマイルハートクラブ様、三井住友海上火災保険(株)様 仙台冠ロータリークラブ様 (株)日専連ライフサービス様 みやぎNPO支援センターネットワーク様 ラッキーコアフル様、お客様一同様 ろうきん「NPO寄付システム」寄付者の皆様

寄附報告のページ(2005年9月掲載)

<http://www.minmin.org/fund/minmin/donete2005.htm>

当初計画では、2005年9月末までにいただいた寄附金と前年度からの繰越金の合計¥727,618-から、基本的人権の保障に関する活動を行う3団体へ各20万円(計60万円)を助成することを予定していたが、有効応募団体が2団体であったため444,444円を今年度の助成原資とし、残額を次年度助成へ繰越すこととした。今年度の助成原資のうち、「地域貢献サポートファンドみんな運用規程」および「同運用細則」により、総額の1割を手数料(公募告知の送料など)とし、残りの40万円を助成金として提供した。

助成金提供経緯

- 10月上旬 「みんなファンド」助成事業募集受付開始。
募集要項 <http://www.minmin.org/fund/minmin/oubo2005.htm>
- 10月31日 募集締切。有効応募総数2団体。
- 11月25日 書類審査会実施。審査の結果、以下の通り助成金の提供を決定。
審査会の様子 <http://www.minmin.org/fund/minmin/result2005.htm>
- 12月7日 助成先団体に助成決定通知書を送付

審査員

「地域貢献サポートファンドみんな 本体ファンド運用委員会規定」により、以下の5氏が審査にあたった。(敬称略・五十音順)

- 大久保朝江 (特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる 代表理事)
- 木村 正樹 (特定非営利活動法人いしのみきNPOセンター 専務理事)

佐々木菜々子（宮城県環境生活部NPO活動促進室長）
 鈴木 和行（株式会社鈴木魁文堂 会長）
 加藤 哲夫（特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事・常務理事）

審査結果について

審査の結果、みんなファンド（本体ファンド）から以下の2団体に、各20万円の助成を行うこととなった。

表7 みんなファンド（本体ファンド） 2005年度 助成対象団体

団体名	所在地	事業名	助成額
特定非営利活動法人 宮城県断酒会	仙台市 太白区	ホームページ立上げによる事業 拡大と新規パソコン購入	20万円
子ども虐待防止ネットワーク・ みやぎ（キャプネット・みやぎ）	仙台市 青葉区	子どもを巡る問題を考える シンポジウム開催	20万円

事業終了後、両団体から提出された助成事業の実施報告については、ホームページに掲載し、広く公開した。

みんなファンド「本体ファンド」助成事業実施報告のページ

<http://www.minmin.org/fund/minmin/report2005.htm>

（3）ふくふくファンド（冠ファンド）

宮城県労働者福祉協議会様からの寄附金による「ふくふくファンド」（宮城労福協社会貢献活動基金）からは、今年度、総額60万円の助成が行われた。助成の公募・審査の手続きは、みんなファンド（本体ファンド）と合わせて以下の通り実施された。

助成金提供経緯

- 10月 上旬 「ふくふくファンド」公募開始。
募集要項 <http://www.minmin.org/fund/fukufuku/oubo2005.htm>
- 10月31日 同、公募締切。有効応募総数10団体。
応募団体一覧 <http://www.minmin.org/fund/fukufuku/apply2005.htm>
- 11月25日 書類審査会実施。助成先決定。
「地域貢献サポートファンドみんな 本体ファンド運用委員会」にて審査を行った。
審査会の様子 <http://www.minmin.org/fund/fukufuku/result2005.htm>
- 12月 7日 助成先団体に助成決定通知書を送付。

審査結果について

審査の結果、「ふくふくファンド」からは以下の6団体に各10万円を助成することとなった。

表8 ふくふくファンド 2005年度 助成対象団体

団体名	所在地	事業名	助成額
特定非営利活動法人 アフタースクールばるけ	仙台市 太白区	広報活動のための屋外掲示板購入	10万円
なかよし人形劇団	柴田郡 柴田町	照明用ライト購入	10万円
宮城朗読奉仕会	仙台市 青葉区	下調べ用参考資料の購入	10万円
S V 2 0 0 4	仙台市 青葉区	「きれいな観戦環境を作ろう」 エコ・ ステーション・レンタル制度の創設	10万円
特定非営利活動法人 グループゆう	仙台市 泉区	NPO法人グループゆう 10年の活動記録 発行	10万円
塩釜まちづくり研究所地域 福祉部	宮城郡 七ヶ浜町	障害者自立支援に関する講演会並びに、 とっておきの音楽会開催	10万円

事業終了後、各団体から提出された助成事業の実施報告については、ホームページに掲載し、広く公開した。

「ふくふくファンド」助成事業実施報告のページ

<http://www.minmin.org/fund/fukufuku/report2005.html>

(4) ろうきん地域貢献ファンド(冠ファンド)

東北労働金庫の預金者の皆様から「ろうきんNPO寄付システム」を通じていただいた寄附金と、利子の30%が寄附される社会貢献定期預金「ろうきんNPOサポーターズ」からの寄附金、そして、東北労働金庫宮城県本部様からのマッチング寄附金とを合わせて原資とする本ファンドからは今年度、総額153万円の助成金を提供した。助成金の提供は、以下の通り実施された。

助成金提供経緯

6月 1日 「ろうきん地域貢献ファンド」公募開始。

募集要項 <http://www.minmin.org/fund/roukin/2005/oubo2005.htm>

7月 1日 同、公募締切。

有効応募総数 Aコース(ボランティア体験応援コース)2団体

Bコース(事業ステップアップ応援コース)13団体

7月22日 第1次選考(書類審査)実施。

Aコース 以下の通り2団体への助成を決定。

審査の様子 <http://www.minmin.org/fund/roukin/2005/kekka2005a.htm>

Bコース 審査上位6団体を第2次選考へ進めることを決定した。

第1次選考 審査員(敬称略・順不同)

鈴木富士夫 東北労働金庫 宮城県本部推進委員会 委員長

大沼 信一 東北労働金庫 宮城県本部 副本部長

白崎 洋 東北労働金庫 宮城県本部 営業推進グループ 担当部長

黒澤 学 (株)地域計画研究所 仙台支社(Bコースのみ審査)

紅邑 晶子 せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長(同上)

8月 5日 第2次選考（公開コンペ）実施。

Aコース 助成決定団体がプレゼンテーションを実施。

Bコース 第1次選考を通過した6団体が、各団体の概要、活動の内容などについてプレゼンテーションを実施。得点制で審査。審査の結果、以下の通り助成金の提供を決定した。

Bコース審査の様子

<http://www.minmin.org/fund/roukin/2005/kekka2005b.htm>

第2次選考 審査員（敬称略・順不同）

秋山博信 財団法人仙台市産業振興事業団 事務局長

加納雅明 東北電力株式会社宮城支店

企画管理部門 広報・地域交流グループ主任

佐竹元春 東北労働金庫 常務理事兼宮城県本部長

針生英一 ハリウコミュニケーションズ株式会社 代表取締役社長

加藤哲夫 せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事兼常務理事

審査結果について

審査の結果、Aコースについては、応募2団体に満額の助成を行うこととなった。

Bコースについては、審査の得点上位2団体に満額の助成を決定した。得点第3位の「介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会」については一部助成として30万円の助成を決定した。さらに「ろうきんNPO寄付システム」の「おまかせ」コースに寄付をいただいた28,962円については、助成総額とは別枠の特別賞として提供することとし、協議の結果、次点の「ばざーる太白社会事業センター」へ提供することとなった。

表9 ろうきん地域貢献ファンド 2005年度 助成対象団体

Aコース			
団体名	所在地	企画内容	助成額
せんだいCARE S実行委員会	仙台市 青葉区	せんだいCARE S2005「ことしはイッショに！！杜の都のCARE S大作戦」	10万円
くりはら花の会	栗原市	環境美化運動。栗原市築館地区の高森遺跡周辺にて、ベンチを設置する。	10万円
Bコース			
企画内容	所在地	企画内容	助成額
みやぎいのちと人権リソースセンター	仙台市 宮城野区	いのちと人権を支えるしくみづくり事業。	50万円
特定非営利活動法人 いしのみまきNPOセンター	石巻市	「セカンドライフに向けてのいきがいづくり」	50万円
特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	仙台市 宮城野区	特別養護老人ホームにおける「ユニットケア」調査およびホームページの作成。	30万円
特定非営利活動法人ばざーる太白社会事業センター	仙台市 青葉区	地域ではぐくむ「クラブハウス」づくり事業。	28,962円

事業終了後、各団体から提出された助成事業の実施報告については、ホームページに掲載し、広く公開した。

「ろうきん地域貢献ファンド」助成事業実施報告のページ

<http://www.minmin.org/fund/roukin/2005/report2005.htm>

(5) みやぎNPO夢ファンド(冠ファンド)

宮城県の拠出金と市民からの寄附金による「みやぎNPO夢ファンド」からは、以下の通り助成が行われた。

(a) 運用委員会の開催

ファンドの適切な運営を図るため、以下の9名からなる運用委員会を2005年4月9日(土)、5月14日(土)、5月15日(日)、2006年1月14日(土)の計4回開催した。助成金の書類審査および公開コンペによる審査は、運用委員会にて行われた。

<運用委員名簿(敬称略)>

学識経験者	山田 晴義	宮城大学事業構想学部教授	委員長
	江尻 行男	東北福祉大学教授	
NPO関係者	大久保 朝江	特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる代表理事	副委員長
	兵藤 博行	高清水ソフトウェアカンパニー代表	
	中村 祥子	特定非営利活動法人グループゆう代表理事	
	木村 孝	特定非営利活動法人不忘アザレア常任理事兼事務局長	
企業関係者	間庭 洋	仙台商工会議所常務理事兼事務局長	
	佐々木 武夫	エースシステム株式会社代表取締役	
宮城県	渡邊 光子	宮城県環境生活部次長(～2005/08)	
	佐々木菜々子	宮城県環境生活部NPO活動促進室長(2005/09～)	

表 10 みやぎNPO夢ファンド 平成 17 年度 運用委員会開催状況

	日時	会場	議題
第1回	2005年4月9日(土) 13:30～16:00	みやぎNPOプラザ 会議室・交流サロン	・平成17年度ステップアップ支援プログラム公開審査 ・ロゴマークの審査について
第2回	5月14日(土) 13:00～18:00	みやぎNPOプラザ 会議室・交流サロン	・平成17年度人材育成支援プログラム公開審査 ・平成16年度事業監査について
第3回	5月15日(日) 13:00～18:00	みやぎNPOプラザ 会議室・交流サロン	・平成17年度スタートアップ支援プログラム公開審査 ・ロゴマークの決定について
第4回	2006年1月14日(土) 10:00～16:45	みやぎNPOプラザ 交流サロン	・平成17年度助成事業報告会 ・ステップアップ支援プログラム継続審査 ・平成18年度助成事業について

(b) 平成 17 年度助成事業の実施

ファンド2回目の助成となる、平成17年度助成事業については、以下の通り実施された。

応募受付 2月1日(火)～4月8日(木)
 人材育成支援プログラム、スタートアップ支援プログラム 2月1日～4月18日
 ステップアップ支援プログラム 2月1日～2月28日
 ステップアップ支援プログラム 応募件数 10件(助成枠1)
 応募一覧 http://www.minmin.org/fund/miyagi/stepup_oubo2005.htm
 人材育成支援プログラム 応募件数 13件(助成枠9)
 応募一覧 http://www.minmin.org/fund/miyagi/jinzai_oubo2005.htm
 スタートアップ支援プログラム 応募件数 17件(助成枠10)
 応募一覧 http://www.minmin.org/fund/miyagi/start_oubo2005.htm
 応募相談会の開催 応募受付期間中に4回開催。

表 11 みやぎNPO夢ファンド 平成17年度助成プログラム

プログラム	助成枠	助成額	助成総額 (最大)
(1)人材育成支援プログラム	9団体程度	10～15万円	135万円
(2)ステップアップ支援プログラム	3団体(注)	100万円	300万円
(3)スタートアップ支援プログラム	10団体程度	15～20万円	200万円
合計			635万円

(注)うち2団体は、平成16年度助成事業からの継続。新規応募は1団体。

ステップアップ支援プログラム書類審査(第1次審査) 3月上旬～中旬
 書類審査通過件数 4件
 書類審査結果 http://www.minmin.org/fund/miyagi/stepup_syorui2005.htm
 ステップアップ支援プログラム公開コンペ(第2次審査) 4月9日(土)みやぎNPOプラザ
 公開コンペの様子 http://www.minmin.org/fund/miyagi/stepup_compe2005.htm
 「移動サービス・ネットワーク みやぎ」へ100万円の助成が決定。
 人材育成・スタートアップ支援 両プログラム書類審査(第1次審査) 4月下旬～5月上旬
 書類審査通過件数 人材育成支援 12件
 スタートアップ支援 17件
 書類審査結果
 人材育成支援 http://www.minmin.org/fund/miyagi/jinzai_syorui2005.htm
 スタートアップ支援 http://www.minmin.org/fund/miyagi/start_syorui2005.htm
 人材育成支援プログラム公開コンペ(第2次審査) 5月14日(土)みやぎNPOプラザ
 公開コンペの様子 http://www.minmin.org/fund/miyagi/jinzai_compe2005.htm
 スタートアップ支援プログラム公開コンペ(第2次審査)
 5月15日(日)みやぎNPOプラザ
 公開コンペの様子 http://www.minmin.org/fund/miyagi/start_compe2005.htm
 3プログラム合計で、22団体へ総額619万円(助成決定時点の額)の助成が行われた。
 助成事業中間報告書の提出 12月19日(月)
 助成事業報告会 2006年1月14日(土)
 報告会の様子 <http://www.minmin.org/fund/miyagi/houkoku2005.htm>
 ステップアップ支援プログラムの助成継続決定 1月14日(土)
 助成継続について http://www.minmin.org/fund/miyagi/stepup_keizoku2005.htm
 助成事業終了 3月末
 助成事業最終報告書の提出 4月末

表 12 みやぎNPO夢ファンド 人材育成支援プログラム 平成 17 年度助成事業一覧

団体名(得点順)	所在地	応募事業名	助成額
東北H I Vコミュニケーションズ (THC)	仙台市 宮城野区	活動会員ステップアップ研修事 業	15 万円
アフタースクールぱるけ	仙台市 太白区	スタッフ・ボランティア研修	15 万円
S V 2 0 0 4	仙台市 青葉区	スポーツボランティアセミナー	15 万円
特定非営利活動法人 しょうがい福祉ネット仙台	仙台市 若林区	役員研修会	15 万円
特定非営利活動法人 「クリーンせみね」	栗原市	図書館法による図書分類講習会	11 万円
特定非営利活動法人 TERAKOYA	古川市	学校支援ボランティア研修会	15 万円
特定非営利活動法人 あかねグループ	仙台市 若林区	心のいやしをサポートする ボランティア育成のための カウンセリング講座	15 万円
特定非営利活動法人 角田保育ママの会	角田市	保育者の研修	13 万円
特定非営利活動法人 冒険あそび場 - せんだい・みやぎネットワーク -	仙台市 青葉区	担い手養成講座 ～プレーパーク編～	15 万円

表 13 みやぎNPO夢ファンド
ステップアップ支援プログラム 平成 17 年度助成事業一覧

団体名	所在地	応募事業名	助成額
特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ	仙台市 若林区	ホームレス・生活困窮者への就労・ 起業支援事業	100 万円
子ども虐待防止ネットワーク・み やぎ(キャブネット・みやぎ)	仙台市 青葉区	子どもの虐待対応ワークショップ 県内キャラバン	100 万円
移動サービス・ネットワーク み やぎ	仙台市 青葉区	移動サービス支援センター運営& 運行管理システムの開発	100 万円

表 14 みやぎNPO夢ファンド
スタートアップ支援プログラム 平成 17 年度助成事業一覧

団体名(得点順)	所在地	応募事業名	助成額
みやぎ環境教育ネットワーク	仙台市 青葉区	宮城県環境基本計画へ意見を出そ う!	20 万円 (注1)
ハイチ友の会(仙台支部)	仙台市 太白区	ハイチ農村開発事業 ・コーヒー栽培支援調査	20 万円
古川 mama's ネット	古川市	育児の不安や悩みの解消 「親子 DE ワハハ」	20 万円
特定非営利活動法人 ふあるま・ねっと・みやぎ	仙台市 泉区	医薬品と保健的食品の適切な使用 を支援するための出前講座の効果 的実施	20 万円
特定非営利活動法人	仙台市	温暖化防止セミナー開催事業「未来	15 万円

エコワーク実践塾	若林区	の子供たちのために...見て、触れて、行動しよう！」	(注2)
くりはら活性化ネット	栗原市	特定非営利活動法人くりはら活性化ネット設立記念イベント及び市民活動講習会	20万円
大島大好き！	気仙沼市	気仙沼大島 イエローランド構想の立ち上げ	20万円
特定非営利活動法人 鶴が丘生涯学習塾まほろば	仙台市 泉区	シニアのためのおはなし会	15万円
特定非営利活動法人 イコールネット仙台	仙台市 青葉区	「瓦礫の中の女たち」写真展&講演会	20万円
障害者プロレス団体 「ODAZUNA」	仙台市 青葉区	障害者プロレス「ドッグレッグス」 宮城興業～接吻～(仮)	20万円

(注1) 後日、事業中止により全額返金となった。

(注2) 最終精算で、助成額は12万円となった。

(c) 寄附金の募集

様々な機会を通じてファンドへの寄附を呼びかけるために、振込用紙付きの寄附募集チラシを作成したり、夢ファンドのロゴマークをあしらった募金箱を作成するなどした結果、年度内に、1,117,554 円の寄附金をいただくことができた。これらの寄附金は平成 18 年度助成事業の原資として活用することとした。

(d) 平成 18 年度助成事業の実施

平成 18 年度助成事業については、以下の助成プログラムにより実施した。2006 年 3 月までの事業実施状況は以下の通り。

応募受付 2月1日(火)～4月10日(月)

人材育成支援、スタートアップ支援両プログラムについて公募した。

応募相談会の開催 応募受付期間中に4回開催。

表 15 みやぎNPO夢ファンド 平成 18 年度助成プログラム

プログラム	助成枠	助成額	助成総額 (最大)
(1)人材育成支援プログラム	7団体程度	10～15万円	105万円
(2)ステップアップ支援プログラム	3団体(注)	100万円	300万円
(3)スタートアップ支援プログラム	7団体程度	15～20万円	140万円
計			545万円

(注) 3団体とも平成 17 年度助成事業からの継続。新規募集はなし。

2 - 3 情報発信

前年度に引き続きシステムの運営状況については随時ホームページ上で公開し、透明性・公開性を確保したシステム運営を行った。

<各事業のページ一覧>

サポート資源提供システム <http://www.minmin.org/SSS/>

みんみんファンド <http://www.minmin.org/fund/>

ろうきん地域貢献ファンド <http://www.minmin.org/fund/roukin/>

みやぎNPO夢ファンド <http://www.minmin.org/fund/miyagi/>

NPO情報ライブラリー <http://www.minmin.org/Library/>

この他にメール、FAX、郵送など各種手段を活用しながら、企業向け・NPO向けの情報発信を随時行った。2001年度に作成したリーフレットについても継続して配布を行い、約1,250部を配布した。(NPO向け約700部、企業向け約550部)。また、後述の「せんだいCARE S2005」のパンフレット内に、システム紹介のページを設け広く配布することで、さらなる告知に努めた。

さらに、後述の「ドナーの学校」事業費内にて、地域貢献サポートファンドみんみんのリーフレットを新たに1万部作成した。これについては、次年度以降広く配布し、ファンダへの理解促進、寄附の促進に努めたい。

新聞等各種メディアへの掲載状況については、以下の通り。

<マスコミ掲載記事>

2005年4月28日	河北新報	「県・夢ファンド 本年度助成対象は仙台のNPO法人」
2005年5月5日	河北新報	「中古パソコン寄贈赤信号 NPOへの企業提供激減」
2005年5月10日	河北新報	「NPOへの資源提供システム 3年半で2,200万円相当」
2005年5月22日	河北新報	「NPO夢ファンド 助成19団体決まる」
2005年5月28日	河北新報	「成長願い「木」を表現 NPO夢ファンドロゴマーク決まる」
2005年10月10日	日本経済新聞	「増える「地域ファンド」自治体効率化に一役」

<その他掲載記事>

2005年10月9日	県からのお知らせ	みやぎNPO夢ファンド 大収穫祭
------------	----------	------------------

2 - 4 関連事業報告

2 - 4 - 1 NPO情報ライブラリー

前年度に引き続き、団体情報の収集・発信を行った。登録団体数は引き続き増加しており、2006年3月末現在の登録団体は138団体となった。

今年度からは、長期間更新のないNPOに対して、情報更新の呼びかけを積極的に実施した。その結果、更新率(おおむね1年半以内に情報更新を実施している団体の割合)は、ほぼ70%台を保つことができ、より質の良い情報発信を行うことができた。

2 - 4 - 2 せんだいCARE S

せんだいCARE S 2005は、2003年よりまちづくりキャンペーンとして毎年11月の約1ヶ月間開催している。コンセプトは、仙台市内で仙台のまちの課題解決をしたり、町を活性化しようとして活動しているNPOの活動を「仙台のお世話をしている(CAREをしている)」と考え、NPOと一緒に企業市民や一般市民を巻き込んで一緒にCAREしましょうというまちづくり企画。

3年目となる2005年は、11月1日(火)~12月3日(土)の33日間にわたり開催された。参加NPOの数は46団体、協賛企業は48社となり、作成したパンフレットはA4サイズのを4万部。初の試みとして、せんだいCARE Sを応援するチケット「ドネーションチケット(1枚:1,000円)」を作成し、実行委員と参加NPOと一緒に運営資金を約50万円近く集めた。ほかにも、団体のイベント紹介ツールに[QRコード]を掲載。実行委員会が主催したイベントとしては、オープニングイベントを11月5日(土)にせんだいメディアテーク・オープンスクエアで開催、35団体がブースを設置、コミュニティFMのラジオ収録やイベントを盛り上げる様々なパフォーマンスが繰り広げられた。11月19日(土)には、「その日、せんだいはゴミのない街になる」プロジェクトを実施、仙台市環境局の協力を得て約170名近くの市民が参加した。その際、ろうきん地域貢献ファンドの助成を受けて制作したエコバッグに環境関連の情報を入れ参加者に配布した。12月3日(土)に行なわれたフィナーレでは、公募していたシンボルマークの赤い恐竜の名前が「はあとらす」に決定したことが発表された。

- ・期 間：2005年11月1日(火)~12月3日(土)
- ・参加NPO：46団体、イベント・講座数：51
- ・主 催：せんだいCARE S 2005 実行委員会
- ・共 催：せんだい・みやぎNPOセンター、仙台市
- ・協賛企業：48社
- ・広報協力：55団体・企業

- ・後 援：23 団体・企業
- ・協 力：3 社、5 行政機関
- ・実行委員：35 名
- ・事 業 費：2,838,404 円
- ・助 成 金：宮城県共同募金会配分金(40 万円) ろうきん地域貢献ファンド(10 万円)

2 - 4 - 3 ドナーの学校

今年度は、寄付文化の醸成のために「ドナーの学校」と題した事業を実施した。なお、実施においては、宮城県共同募金会の配分金を受けた。

具体的には、みんなファンドパンフレット制作 募金箱コンテストの実施 ドネーションパーティの開催 を実施した。

(1) みんなファンドパンフレット制作

2003 年 7 月に設置した「みんなファンド(正式名称：地域貢献サポートファン

ドみんな)」は、

1. 寄付を希望する方の相談 / コンサルティング事業
2. 4 つの資金提供業

により運営されている。これまでに、約 2,000 万円を宮城県内の NPO に助成している。しかし、まだまだこのファンドの認知度は低く、より効果的な広報が必要とされてるが、これまではわかりやすいパンフレットがなく苦慮していた。

そこで、「芸術的募金箱コンテスト」や「12 月のドネーションパーティ」で得た体験を活かし、パンフレットを制作した。また、改めて NPO に関する情報公開の仕組み「NPO 情報ライブラリー」についても紹介すると共に、カードによる資金支援の方法や遺贈 / 寄贈に関する情報も掲載し、より広い NPO への支援情報を提供した。(A3 カラー)

(2) 募金箱コンテストの実施

< 企画趣旨 >

NPO を支えるみんなファンド、みんなで支え合う寄付の文化を育てたい。

宮城県内の NPO を市民の寄付金で支えるみんなファンド。そのみんなファンドを知ってもらいながら、誰でも簡単に NPO の応援をする事ができる仕組みを作る。

みんなファンドを知ってもらうために、面白い募金箱で注目を集めたい。

コンビニのレジの横によく置いてある募金箱。ほとんどの募金箱は、どこで見ても似たような形の募金箱ばかり。そこで、「これって何だろう?」「不思議な人たち、きれいな箱」「変わった置き物」と思って人目を引き、よく見ると募金箱だと気づいて、ついつい寄付したくなるような、そんな「かっこいいデザイン」「楽しい仕掛け」を持った芸術的な募金箱を募集して、おしゃれなカフェに置いて注目を集めるというアートと募金を融合させた企画。

芸術的募金箱募集

- ・ 応募期間：2005年10月11日～11月10日
- ・ 応募総数：18点（うち入賞：11点）
- ・ 展示審査期間：2005年11月25日（金）～12月7日（木）
- ・ 募金箱設置協力店：11店舗

芸術的募金箱コンテスト最終審査会（敬称略）

- ・ 開催日：2005年12月9日（金）
- ・ 会場：エル・パーク仙台 6Fスタジオホール
- ・ 審査員：吉川 由美（プロデューサー・演出家）
ルナ・ビセンテ（ジャポンネット代表）
LOCO（紙コップアーティスト）
- ・ 審査結果：大賞：「夢中空間」 皆に春を
特別賞：「再選募金箱」 池田達也
審査員賞：「真心箱んでBOX」 真山正太
「箱選ぶ」 口キツ
「幸せを招ぶ『不苦労』」 鳥越九朗

【応募者の声】

みんなが親しみを持ってくれるようなかわいくて面白いものを作ろうと思った。/ 一方通行の寄付じゃなくて、お金と共にメッセージを頂く事ができる募金箱を作った。/ この箱にお金を入れることで、寄付を募る背景にある問題を考えるスイッチに。/ 社会貢献の意識の目覚めを目的に。/ たくさんの人たちが幸せに、よりよい暮らしができるように。/ お金を入れる人も、置いているお店も喜べる募金箱があったらと思って作った。

【お店の声】

お店にキャラクターが合っていてお客様の反応もよかった。/ 箱と募金の関係に「?」という方が多かった気がする。/ みなさん、珍しそうに見たり触ったりしていたように思った。/ アイディア、コンセプトは素晴らしいと思った。参加できて楽しかった。/ いい作品だったが、あまり気付いた人がいなくて残念。/ 今後、募金箱のクオリティを上げて注目されるようになったらますます盛り上がると思う。/ みんなで楽しめてよかった。

(3) ドネーションパーティの開催

< 企画趣旨 >

NPOへの寄付行為を身近なものにしたい。

宮城県内でもたくさんのNPOが活動している。いずれも資金調達には苦労しており、市民のNPOへの寄付行為はアメリカなどに比べると身近なものになっていない。そこで寄付チケットを購入したり、楽しいパーティに参加したりしながらNPOに資金支援ができる仕組みとしてドネーションパーティを企画した。内容は、「NPOのことが知りたい、なにか社会の役に立つことができれば」という人たちを対象に寄付チケット[OKOKOROチケット]を購入してもらい、パーティ当日にプレゼンテーションを聴いて共感するNPOに直接、あるいは事前に間接的に寄付をするというものである。また、[OKOKOROチケット]販売金額の内、2分の1を参加NPOが、残り2分の1をみんなファンドに配分するという計画であった。(実際の配分は後述のように変更)

NPOに資金調達をする方法を学んでもらいたい。

信頼性の点から当センターのNPO情報ライブラリーに定期的に情報提供・更新している団体の中よりエントリーしてもらった団体(7団体)に寄付チケットの販売と、パーティでプレゼンテーションをしてもらい、寄付者に直接アピールする資金集めの体験をしてもらう企画。自分たちの活動で必要としているお金をチケットの販売やプレゼンテーションを通じて、顔の見える関係のなかで寄付集め体験をし、共感を得るための訴え方、その道具や準備の必要性を再確認し、共感してもらう喜びを体感してもらう。

上記のような企画趣旨に基づき、参加NPO7団体と当センター理事・スタッフ関係者、そしてサポート資源提供システム参加企業関係者によるチケット販売を行った。ちょうど「せんだいCARES 2005」の開催期間とも重なり、同様にドネーションチケットの販売を行った直後だったので心配されたが、皆さんの御尽力により、チケット販売枚数は667枚を数えた。参加NPOの販売努力にも報いるため、みんなファンドとの配分比率を見直し、当日投票されなかったチケット分については、全額上位3団体に配分することにした。その結果、以下のような資金配分が実現した。

また、参加各団体の声からも、パーティ参加者の声からも、直接間接にNPOと市民が出会い、コミュニケーションを交わしながら、その結果として寄付という行為が発生する、このような場と機会の創出は、ますます求められていることを実感した企画であった。

- ・開催日：2005年12月9日（金）
- ・会場：エル・パーク仙台 6F スタジオホール
- ・参加NPO：7団体
 キャブネット・みやぎ、グループゆう、仙台夜まわりグループ、
 ミヤギユースセンター、みやぎダンス、宮城県断酒会、麦の会
- ・パーティ参加者：120名
- ・ドネーションチケット作成枚数：1,000枚
- ・[OKOKOROチケット]販売枚数・金額 667枚（667,000円）
- ・チケット投票結果および配分金額明細：

	団体名	当日投票金額	ボーナス寄付	合計金額
1位	仙台夜まわりグループ	60,000円（120票）	99,000円	159,000円
2位	宮城県断酒会	42,500円（85票）	59,400円	101,900円
3位	みやぎダンス	40,000円（80票）	39,600円	79,600円
4位	キャブネット・みやぎ	33,500円（67票）	なし	33,500円
5位	麦の会	26,500円（53票）	なし	26,500円
6位	グループゆう	17,000円（34票）	なし	17,000円
7位	ミヤギユースセンター	15,000円（30票）	なし	15,000円
	計	234,500円（469票）	198,000円	432,500円

みんなみんファンドへの寄付	234,500円（469票）
---------------	----------------

当日 各NPOに投票された票数により、1000円の2分の1が各NPOに配分された。さらに、獲得票数の上位3団体には、当日投票されなかった票数（667-469=198票）にあたる198,000円が加算配分された。

みんなみんファンドへの配分は従って当初の全体の2分の1ではなく、当日投票された票数（469票）の2分の1（234,500円）になった。その結果、最終配分は以下のようになった。

参加NPOへの寄付金総額	432,500円
みんなみんファンドへの寄付	234,500円
合計	667,000円

2 - 4 - 4 地域貢献活動相談センター

企業・各種団体からの相談を随時受け付けた。

3. サポート資源提供システム 2005年度 収支計算書

せんだい・みやぎNPOセンター特別プログラム「サポート資源提供システム」
2005年度収支計算書（2005年4月1日～2006年3月31日）

収入の部

(円)

科目	予算	決算	備考
システム協賛金	700,000	500,000	
事業収入	1,500,000	1,403,571	
(内訳) 物品仲介手数料(企業)		162,850	
中古PC手数料(NPO/ヤマトコレクト利用)		258,500	
資金仲介手数料(ろうきんファンド)		150,000	
資金仲介手数料(ふくふくファンド)		100,000	
資金仲介手数料(みやぎNPO夢ファンド)		687,777	*預り金の部より
資金仲介手数料(みんなみんファンド)		44,444	*預り金の部より
システム運営への寄付金	0	26,841	
負担金 せんだい・みやぎNPOセンター	2,000,000	1,986,997	
前期繰越金	0	0	
合計	4,200,000	3,917,409	

支出の部

科目	予算	決算	備考
人件費	3,060,000	3,060,000	
管理費	610,000	610,000	
(内訳) 社会保険料	370,000	370,000	
家賃、光熱費等	240,000	240,000	
事業費	170,000	67,099	
(内訳) 会場費	30,000	0	
運搬費	50,000	38,304	
旅費交通費	50,000	14,150	
打合会議費	20,000	1,556	
支払手数料	20,000	13,089	
事務局費	360,000	180,310	
(内訳) 消耗品費、雑費	30,000	16,200	
通信費	200,000	164,110	
予備費	130,000	0	
合計	4,200,000	3,917,409	

地域貢献サポートファンド みんな 預り金の部

科目	前年度より繰越	ファンド預り金収	助成事業支出	次年度へ繰越
預り金				
(内訳 ふくふくファンド	0	615,636	600,000	15,636
ろうきん地域貢献ファンド	73,654	1,547,467	1,533,562	87,559
みやぎNPO夢ファンド	17,124,445	6,388,779	(*1)6,915,393	16,597,831
日専連カード基金	0	66,728		66,728
みんなファンド/本体ファンド	513,318	758,559	(*1)444,444	827,433
合計	17,711,417	9,377,169	9,493,399	17,595,187

平成17年4月1日～18年5月11日

(宮城県共同募金配分金事業)

「ドナーの学校」収支計算書

収入の部

科目	予算	決算	差額	備考
共同募金会配分金	700,000	700,000	0	
参加費	1,000,000	667,000	-333,000	
自己資金	135,000	153,748	18,748	
収入合計	1,835,000	1,520,748		

支出の部

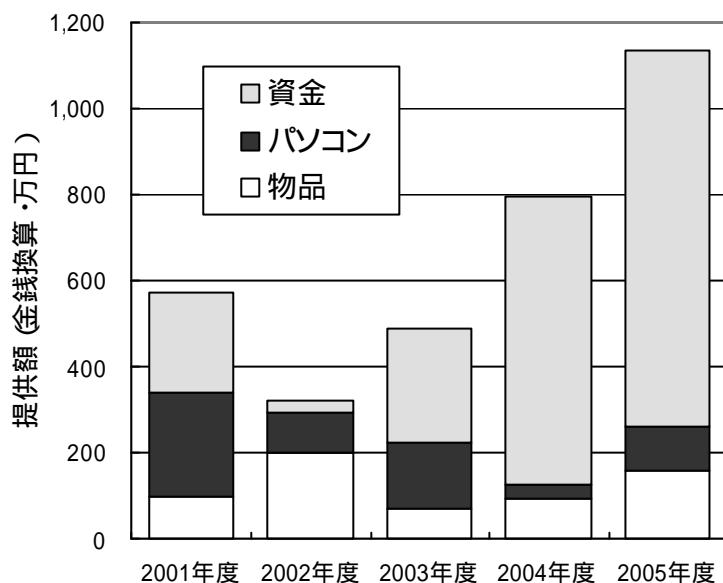
科目	予算	決算	差額	備考
参加NPOへの寄付	1,000,000	667,000	333,000	
審査員謝金	150,000	150,000	0	
審査員交通費	30,000	41,680	-11,680	
審査員宿泊費	10,000	6,615	3,385	
会場費	100,000	49,300	50,700	
コンテストパンフレット・ポスター印刷費	100,000	99,120	880	
パンフレットデザイン費	80,000	80,000	0	
郵送費	105,000	6,080	98,920	
消耗品費・看板制作費	50,000	24,822	25,178	
みんなファンドパンフレット印刷費	150,000	141,750	8,250	
みんなファンドデザイン費	60,000	80,000	-20,000	
雑費	0	174,381	-174,381	
支出合計	1,835,000	1,520,748		

4. サポート資源提供システム 運用実績

これまでの運用実績を振り返る

試験運用の 2001 年度を含め、これまでの 5 年間の資源提供実績をまとめると次のグラフのようになる。

サポート資源提供システム 資源提供実績経緯



(注) 2001年度は試験運用期間 (2001/09 ~ 2002/06)
2002年度は 8 ヶ月間の実績 (2002/07 ~ 2003/03)
2005年度は 11 ヶ月間の実績 (2005/04 ~ 2006/02)

2 年目の 2002 年度に一旦落ち込みはあったが、2003 年度に「地域貢献サポートファンドみんな」の運用を開始してからは、おかげさまで一貫して提供実績が伸びている。2005 年度は、前年度比約 43% の伸びとなった。

ただし、システムの運営にかかる経費については、毎年赤字となっており、センターからの持ち出し (会員の皆様の会費や寄付金などを充当させていただいている) は毎年 200 万円を超える規模である。センターとしても、収支の改善に向けた努力をこれまで通り続け、会員の皆様にも、これまでとかわらぬご支援をよろしくお願いいたします。

関連 URL

サポート資源提供システム <http://www.minmin.org/SSS/>

みんなファンド <http://www.minmin.org/fund/>

ろうきん地域貢献ファンド <http://www.minmin.org/fund/roukin/>

みやぎ NPO 夢ファンド <http://www.minmin.org/fund/miyagi/>

NPO 情報ライブラリー <http://www.minmin.org/Library/>

サポート資源提供システム 2005年度 運用実績 (2005/04/01～2006/03/31)

物品等提供

提供者(敬称略)	提供資源	提供先団体数	提供点数	提供時期
せんだい・みやぎNPOセンター	什器・備品	1団体	2点	2005年6月
(株)地域計画研究所	什器・備品	1団体	6点	2005年7月
東京海上日動火災保険(株)	什器・備品	10団体	77点	2005年8月
三井住友海上火災保険(株)	什器・備品	23団体	487点	2006年1月
		のべ35団体	572点	159.5万円相当

パソコン等提供

提供者(敬称略)	提供資源	提供先団体数	提供台数	提供時期
(社)宮城県情報サービス産業協会	プリンター	1団体	1台	2005年6月
(社)宮城県情報サービス産業協会	ノート	1団体	2台	2005年6月
(社)宮城県情報サービス産業協会	デスクトップ	14団体	21台	2005年9月～10月
	ノート	9団体	10台	2005年9月～10月
(社)宮城県情報サービス産業協会	デスクトップ	4団体	4台	2006年2月
	ノート	12団体	18台	2006年2月
		のべ41団体	56台	104.5万円相当

資金提供

提供者(敬称略)	提供資源	提供先団体数	提供総額	提供時期
みやぎNPO夢ファンド(宮城県)	助成金(冠ファンド)	22団体	619万円	2005年5月
ろうきん地域貢献ファンド (東北労働金庫 宮城県本部)	助成金(冠ファンド)	6団体	153万円	2005年8月
みんなファンド(*)	助成金(本体ファンド)	2団体	40万円	2005年11月
ふくふくファンド (宮城県労働者福祉協議会)	助成金(冠ファンド)	6団体	60万円	2005年11月
		のべ36団体	872万円	

(*)9名・団体からの寄付金をあわせて提供

総額1,136万円相当の支援

NPO情報ライブラリー登録 138団体 (2006/03/31現在)